

特定非営利活動法人 防災千葉

千葉市中央区本町1-6-24（渡辺コーポ102号）

E-mail bosai@bosai-tiba.jpHomepage <http://www.bosai-tiba.jp>

Fax 043-301-3820

■ <理事長のあいさつ>

令和6年も3月を迎え、日ごとに温かさを増し春の気配を感じられる候になりましたが、「会報」（新春号）の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、本年開けて1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、能登地方では建物倒壊、大規模火災、津波災害、土砂災害及び液状化による災害、さらには地盤の隆起も確認されるなど、災害の連鎖による激甚な被害が生じました。この災害により犠牲になられた方々に対し、衷心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

一方、昨年9月には本県におきましても台風13号により、局地的な豪雨がもたらす線状降水帯が繰り返し発生するなど、記録的大雨による河川の越水や家屋浸水、がけ崩れなど県内各地で甚大な被害が発生したところです。千葉県では、まだ私どもの記憶に新しい、令和元年房総半島台風及び同年の10月25日の大雨による災害に続く大規模災害となりました。このように激甚化、頻発化する災害は、今や、わが国では、いつでも、また、どこでも当たり前のように発生するものと覚悟しなければならない時代を迎えています。

このような中、1月19日に開催しました「令和5年度防災関係建設技術研修会」では、共催4団体の皆様方には多くのご出席を賜り、改めまして主催者を代表して厚く御礼を申し上げます。今回の研修会では「激甚化、頻発化する災害への対応」と題して、関東地方整備局における防災対策の取り組み、及び台風13号の接近に伴う豪雨災害に対する取り組みの2題について、ご講演をいただきました。講演の概要については、当会報でこのあとご紹介しますのでご覧ください。

また、昨年は関東大震災から100年の節目の年でもありました。首都直下地震等大規模地震の切迫性が指摘される中、関東地方整備局では本県を含め管内の1都7県と連携し、

「関東大震災100年；連携・実践・わがこと化」と題してリレーシンポジウムが開催されたところです。この度の能登半島地震も含め、これまでの大震災の教訓を踏まえ、自然災害に対してその災害リスクを想定し、行政として、また、個人として一人ひとりが自分事として

どう備え、また、どう行動したらよいのかを真剣に考えるきっかけにもなりました。

本年におきましても、N P O防災千葉は、「災害に強い県土づくり・地域づくり」に寄与できますよう引き続き各種事業に取り組んでまいりますので、会員の皆様方の変わらぬご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。

N P O防災千葉 理事長 増岡 洋一



N P O会員作品

■ <防災関係建設技術研修会について>

令和6年1月19日に「プラザ菜の花」において「令和5年度防災関係建設技術研修会」を開催しました。この研修会は、千葉県道路協会、千葉県河川協会、全国治水砂防協会千葉支部との共催によるもので、NPO防災千葉からの出席者33名を含め、総勢95名の出席がありました。

開催にあたり4団体を代表して、当NPOの増岡洋一理事長から開会挨拶があり、また、県土整備部災害・建設業担当部長の菰田直典様から来賓挨拶がありました。



増岡理事長

菰田災害・建設業担当部長

また、講演に先立ち、「災害復旧及び災害防止事業功労者表彰」について、県土整備部河川環境課長の前田尚志様から、令和5年11月10日の災害復旧促進全国大会において、千葉県から小林達也様、吉野利秋様、麻生雅通様の3名が表彰されたことが紹介されました。



右から小林達也様、吉野利秋様、麻生雅通様



前田河川環境課長

研修会は、「激甚化、頻発化する災害への対応」と題して、まず、国土交通省関東地方整備局災害対策マネジメント室長の高橋哲様から「関東地方整備局の災害対応について」ご講演いただく予定でしたが、高橋様が能登半島地震への対応等で急遽出席いただけなくなつたため、代理として当NPO中橋正 会員から、国土交通省が自治体職員向けに作成した、TEC-FORCEなどの支援体制に関する動画の再生に続き、

- ・関東地方整備局の防災・災害対策
- 統括防災グループなど強化された災害支援体制
- TEC-FORCEの活動概要
- 国土交通省が保有する災害対策用機材の紹介
- ・近年の災害
- 令和元年台風15号における対応
- 令和元年台風19号及び低気圧による大雨における対応
- 令和5年9月8日からの台風13号による対応
- などについて資料の説明がありました。

次に、県土整備部県土整備政策課災害対策担当課長の椿原保彦様から、ご講演があり、現在進行形の能登半島地震に対する千葉県の支援体制についてのお話に続き、令和5年9月の「台風13号に伴う豪雨災害に対する県土整備部の取組について」

- ・県土整備部の配備
- ・台風13号による被害（公共土木施設）
- ・関東地方整備局からの支援
(ポンプ車・道路清掃車・ヘリコプター)
- ・ドローンを活用した被害状況調査
- ・災害査定
- ・台風13号対応に係る反省

などのお話をいただきました。また、東北地方整備局が東日本大震災の経験によりまとめた「災害初動期指揮心得」がインターネット上に無料公開されており非常に参考になることなども紹介されました。



中橋会員



椿原災害担当課長



講習会会場



講習会司会 当NPO鯉渕企画部長

■ <土砂災害危険箇所点検への参加>

土砂災害防止月間（6月）の事業として行われる土砂災害危険箇所点検（通称 がけ点検）に、当NPOでも積極的に取り組んでいます。その詳細は以下の表のとおりです。

近年の実施状況（点検箇所数）

令和元年	841箇所
令和2年	871箇所
令和3年	846箇所
令和4年	876箇所

（実施期間 令和5年6月13日～8月10日）

土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数	土木事務所名	実施日数	点検箇所数	NPOの参加者数
千葉土木事務所	4	22	5	海匝土木事務所	2	35	4
葛南土木事務所	1	40	2	山武土木事務所	3	12	4
東葛飾土木事務所	4	41	4	長生土木事務所	1	113	6
柏土木事務所	2	22	4	夷隅土木事務所	6	62	6
印旛土木事務所	5	107	12	安房土木事務所	3	44	3
成田土木事務所	3	38	6	君津土木事務所	3	50	10
香取土木事務所	1	32	4	市原土木事務所	1	65	6
銚子土木事務所	2	19	4		計		702
							80

■ <あるくパトロールへの参加>

「道路を守る月間」（8月）の事業として、毎年土木事務所が行っている「あるくパトロール」に、令和5年度は13土木事務所管内で参加しました。

NPO防災千葉からの参加者は、延34名でした。

近年の実施状況（参加延人員）

令和元年	54名	（14土木事務所）
令和2年	40名	（13土木事務所）
令和3年	39名	（13土木事務所）
令和4年	38名	（13土木事務所）

■ <土木遺産調査伝承事業>

この事業は、これまで先人たちが自然災害防止などを目的として整備した千葉県内の土木施設等を訪れ、地域の歴史や整備の経緯等について、現在土木施設整備を担っている若い技術者たちへ伝承することにより、今後の施設整備の一助となればと考え、千葉県建設技術協会との共同開催として令和4年度からスタートしました。令和5年度は11月に、養老渓谷周辺の川廻し、弘文洞跡、2層トンネルなどを視察予定でしたが、同協会から台風13号の接近に伴う大雨による被害の復旧対応等の状況に鑑み、自粛するとの連絡があったことから開催を中止しました。

■ <震災訓練への参加>

例年実施されている千葉県県土整備部震災対策訓練に、各土木事務所管内で当NPO会員が参加しています。今年度は令和5年9月8日の予定が台風第13号の接近に伴う大雨により延期され、令和6年1月17日に予定されましたが、令和6年能登半島地震の影響により中止となりました。